

REA

news
vol.18

Real Alumni Association

● 明海大学浦安キャンパス
● 同窓会緑風会報

過去、現在、そして未来へ

特集

ホームページ
<http://www.meikai-rea.jp/>

過去、現在、そして未来へ

林先生、阪本先生、前川先生、そして大学1期生の伊藤顧問にお越し頂き、設立理念や今・過去の学生の特徴や変化、今後の明海大学の期待、設立時の目標や達成度、OBに対して今後の期待をお伺いしました。

*P*resentator



坂本 一郎
うらやす市民大学副学長
教授
専門分野：都市計画



林 亜夫
アドミッションセンター副センター長 教授
専門分野：社会工学／都市・地域経営／情報処理論



前川 俊一
不動産研究センター長 教授
専門分野：公共経済学／不動産経済学



伊藤 憲
一般財団法人日本不動産研究所勤務。
不動産鑑定士、再開発プランナー。

■ 設立理念

曹 初めに設立理念や目標をお伺いできればと思います。

前川先生 石原先生は、1984年に不動産学会を設立し、不動産学を学問として成立させようという夢があり、1992年に明海大学に不動産学部を設立した。不動産教育で育てた学生を役所、地方自治体などを含め不動産業界を送り込み不動産のレベルを上げようということだった。そういった意味で、卒業生が活躍していることを喜んでいと思う。

林先生 石原先生は学会創立するとともに『不動産学概論』という書籍を、丸山英気氏と田中啓一氏とともに書き残している。そのときすでに内容は豊富で幅広い。

阪本先生 私は1994年に明海大に着任し、設立当初はいなかったもので、不動産学部設立の意図は石原先生に聞かないとわからない。しかし石原先生の弟子として見てきたのは次のような事ではないか。社会全体として、1973年ぐらいまでの不動産の値上がりや、新聞などで不動産開発が悪者になった時期があった。また、流通よりも開発系が大きいイメー

ジがあり、バブル時の不動産に対する扱いが冷たく、たとえば地上げのイメージで、暴力団がくっついているとか、なんかそういうイメージがあった。そのようなイメージはおかしいと先生は見られていた。また、石原先生は都市計画や開発に携わっており、不動産の開発や不動産ビジネスは、いろいろな要素があり、それを知っている人間が少ないと前からおっしゃられていた。それで不動産業をやるには、ちゃんと不動産の専門知識を勉強しないとできない。もちろん役所の人間にも専門知識を知ってほしいということもある。それが不動産に対する悪いイメージを払拭する道であるとも考えられたのだと思う。だから、そういう意味では、最初の出来上がった不動産学部は石原先生が期待したものは大きく、それは学生にはものすごい負荷を要求する内容だったと思う。

林先生 不動産学会でも特集で不動産教育はやらなくてはいけないという座談会を設けたり、世界各国の不動産教育を調べたり、国交省(当時、建設省)の人たち、大学の先生方、実務家・鑑定士の方などと、不動産



教育はこうあるべきだとか議論したり、いろいろ調べていた。このような背景のもと、明海大学に不動産学部が92年に設立された。

前川先生 設立された石原先生はすごいですよね。不動産は、いろんな分野あって、経済だったら経済学、法律だったら法学という城がある中で、石原先生だからというのがありますが、いろんな学者を集められたのはすごいことだと思う。

阪本先生 『不動産学概論』を書いたのも、やっぱり世の中に不動産学ってどういうものかを見せるためだった。

林先生 そう、日本で初めてのこころみということもあり、出版の時期を逸してはと、かなりあせってお書きになったという気がする。

曹 今、林先生が書いておられるのですか。

林先生 書いているのではなく、世界の不動産の教科書を調べている。今指導している博士課程の学生が、不動産教育が持っている問題、今後どうしていったらいいかといったことをテーマに研究を行っている。それでちょっと昔のことを、どうだったかを、諸外国の不動産学の教科書や不動産教育の歴史から調べただけだ。

阪本先生 設立前、不動産学部を明海大学に作るのは決まっていなかった。ただ複数の手を上げている候補の中で、都心に近いことや環境面、自由に作れる面で優遇されることから決められた。

林先生 すでに東洋大学の建築学部や日本大学の不動産科学研究科(本間先生が修了された)で一部行われていたが、これらは専攻までだった。

阪本先生 他にもその時代の不動産のイメージが悪かったこともあり、文部科学省との話の中で不動産という学部名が嫌われており、変えることを要求されたという話もあった。

前川先生 確かに業界の名前で、学部名が付いているのは、あまりないですよ。たとえば銀行学部などはないですし。

阪本先生 まあ医学部ぐらい。

小畑 そういう意味で、ほかに学部名の候補があったのでしょうか。

阪本先生 やっぱり都市経済学部があった。

前川先生 他に、環境学部とか。

阪本先生 あるいは居住学部とか。ただし、不動産って名前も貫くのが石原先生の考えで、不動産に対し、実は大事なもののなのに、いつの間に低い扱いを受けているから、高くしようというところもあった。不動産学部という名前に、僕らは教員の中でも、途中で何度も何度も学部名を変えようかと議論になった。イメージっていうのは、なかなか簡単によくない。だが、昔に比べ今はだいぶ良くなっている。

前川先生 教員が研究する場合自分の分野にこだわる。たとえば先ほどの『不動産学概論』を書くときも経済なら経済学の領域のこだわりがある。

林先生 ほとんどの不動産学部の先生方は専門が不動産でない方々である。我が不動産学部を卒業された方々の専門は不動産であるといえるが、このことが大変である。経済や法学などの伝統的学問を学ぶのに比べ、宅建などの資格を取らないと何を学びに来たのかがわからないまま卒業してしまうことになりやすい。一方、アメリカなど不動産教育の長い歴史を持つ古い大学では、すでに不動産を専門・専攻した方々がその教員となり教えている。

小畑 本間先生とお話の中、明海大学へ戻られたときに先生方の間でも本間先生がどの分野にあたるか議論されたことがあり、最後に小泉先生が本間先生は不動産学が専門だということに落ち着いた。

林先生 確かに本間先生が研究されたのは法学の近い分野ではある。

前川先生 先生方は法律専門、経済専門、工学専門と別れている。

林先生 複合領域にまたがる学問:これも大きな問題であり、一般の社会では経済学部、法学部を出られたらわかるが、不動産業界の人たちでさえ、不動産学部を卒業した人がどのような教育を受けたかわからない。ましてや宅建を取ったのであればわかりやすいが。また私や阪本先生が出た社会工学という学問も複合領域の学問といわれ、経済学などの伝統的学問に比べ、分かりづらい学問分野である。

阪本先生 大学の傾向として伝統的な名称が変わり、たとえば土木工学部は消え基盤工学とかの名称になっている。

林先生 不動産学部という名前も変えていくのもいいのではないかと思う。ただし「不動産」という言葉を使っても、不動産学という学問体系が明確になれば、業界だけで



なく社会全体に対して不動産学部からの情報発信が有効となり、不動産学の認知度をあげられるのでないか。

阪本先生 いわゆる不動産業はとても狭い世界で、我々の立場から見るとそのようなつもりで不動産学を教えてはいない。ただ学生とか親から見ると不動産業というのは流通業や管理業という認識がある。

林先生 日本の産業分類がそうになっており、不動産業っていうと、流通業と管理業からなっており、例えば小畑さんの不動産鑑定業務は、高度サービス産業に分類され、不動産業には分類されない。

小畑 そうですね。不動産業の分類ではないですね。

道下 私は流通業である仲介と不動産ファンド業は産業分類としてはわかりませんが。

林先生 不動産研究所も高度サービス産業の分類。不動産ビジネスの様々な専門家がいろいろな業種に入って仕事をされているわけで、不動産業のみが不動産ビジネスの受け皿ではないと考えるべき。地方自治体でもPREといって公共施設の管理なども不動産ビジネスであるし、都市計画課の職員達も宅建を取ることを奨励されたりしていて、不動産ビジネスが浸透している。

門脇 杉並区はないのですが。専門家につくと資格を取ったりはしている。

前川先生 高校の先生や高校生、親などは不動産学が何かわからない。

林先生 生徒が就職で不動産業に就くといった時の親のネガティブな反応や、親戚から学部を聞かれ不動産学部と応えると、「ふーん!不動産屋さんになるのか」といわれた経験があり、これが嫌だったという学生もいた。このような問題は日本だけではなく実はイギリスでもあると聞いている。

曹 先生方のお話を伺うと大学の設立の理念としては、社会から不動産や不動産学として認知度を高めるさせることや不動産分野に携わる専門の方をいろんな分野で活躍してもらうこと。

林先生 不動産というのは、国民経済・生活の根本的な基盤として重要



な位置にあるのに認識が重要で、その次に学問として扱うべきという認識が石原先生にあった。

曹 そのほかにも不動産に対するイメージが悪い中、先生を募集するにも苦労があったのではないかと。

前川先生 当初は不動産だからという考えではなく他も行けたけど新しい学部だからということ集まった。

曹 伊藤顧問は不動産学部を選んだ時、親に反対とかはされなかったのですか。

伊藤 私は一応、父親が不動産の講習などで指導しているので反対はなかった。

阪本先生 けど不動産学部の先生を集めるのは難しいと思われる。なぜなら例えば法学の先生は法学部を卒業した人だが、不動産学部に入ったという経験が、法学部に戻するのに実績になるかが心配されていた。

前川先生 経済学の先生方でも不動産の研究をされているが専門を不動産学と書く人はいない。私は専門を不動産経済学の前に公共経済学と書く。

阪本先生 私も都市計画が先に来る。

林先生 アメリカでも不動産学出身でない先生だと各自の専門の経済学や建築学などを先に持ってくるし、不動産の教科書では専門ごとで見方が違うことも書かれていたりする。一つの原理でまとめるのは難しいので、「価値」を中心にして全体を統合するといったように書かれている教科書もある。アメリカでも不動産の教科書を作るのは苦労しているようだ。

曹 先生方も当時、教科書を作るのに苦労されたのではないのでしょうか。

前川先生 私は不動産研究所の時の知識をベースに書いた。

阪本先生 我々がしようとしてできなかったことは、不動産学をブームにすることに成功しなかったことだ。いろいろなことを試しているが、いい商品なのに売れないという仕組み上の問題に苦労している。

曹 先生方の中で目標としてできなかったことの一つなのですね。だけどできたこともいっぱいあると思われませんか？

阪本先生 やはり卒業生を輩出した結果、あと10年ぐらいで会社のリーダーシップをとれる人が増え、後輩も進みやすい環境になっていくと思う。



林先生 ただ石原先生が第1期生の入学式のときのNHKのインタビューに答えて。

小畑 池上彰氏のやつですよ。

林先生 そう。まだ若かった池上氏が、「バブルが崩壊したいへん厳しいときに大丈夫ですか?」みたいな質問を石原先生にしたのです。そうしたら石原先生は、「いや、厳しいからいいのだ。厳しいから一生懸命やるのです!」。まあ、なるほど、うまいなと思っていたけど、一般の人はそうは感じないのかなと思った。

小畑 そういうの、ありましたね。

曹 1期生の卒業生は何名ぐらいいたのですか。

前川先生 募集定員として330名ぐらいで400名ぐらい入ったのでそれぐらい。

林先生 当時志願倍率も20何倍!

前川先生 ピークの時にA日程3,000人で、B日程で500名ぐらいは受けに来ていた。

曹 倍率が高い期は何期生の時だったのでしょうか。

前川先生 2期生か3期生で1期生は初めての募集でもあったので2期・3期より少なかった。

■ 今・過去の学生の特徴と変化

曹 当初、お話を聞くと初期のころは親のイメージが悪くあまり入らな

かったのではないかと思われましたがそうでもないですね。時代とともにいろいろな学生が入ってきたと思われませんが、先生から見た1期生～現在の学生の違い。

前川先生 初めのころは講義は積極的に前の席に座り、授業を聴いていたが、最近は少なくなったと思われる。

林先生 不動産学部や明海大学に限らず、今の若い人たちは豊かで便利で楽しく生きていける環境の中で、おっきな夢を持たない、バイトで食べていける、結婚しない、などなどの意識から、勉強意欲が弱くなっている気がする。昔はやっぱり不動産っていう、いわゆるイメージが悪くても、それがちょうど変わりつつあったバブル期。ところが、バブル崩壊した後、景気が悪く、デフレの状態が20年近く続いたということもが、不運だった。あそこで経済持ち直して、J-REITの話だとか、投資などもっと早く来て、いろいろないい流れになればよかった。

阪本先生 今一緒に授業を教えている非常勤の肥田先生が荻窪の街づくりに参加され、そこに不動産学部の卒業生に会いしっかりされていますよと伺った。門脇さんのことだった。

門脇 うらやす市民大学に関わっていた首都圏研究所っていうコンサルタントの方に、今、荻窪の街づくりの委託をしていて、参考っていう形で、うらやす市民大学の当時のやっていたこととかを見せていただいたり、教えていただいたりしているのですけど。阪本先生がこの話をして、新田先生も都市計画を教えることを伺った。

曹 周りから今の学生は就職活動を1人ではできないと伺い、そのためのも非常勤の先生も雇っていると聞いたのですが、明海大学も雇っているのでしょうか。

林先生 学部では取っていないが、事務として企業に勤めていた人を雇っている。われわれの問題は、不動産学部として注目して評価してくれる会社があればいいのだが。

前川先生 積極的な学生が少なくなったと思う。

阪本先生 何ていうのかな、生意気な学生が少なくなりさみしくなっている。だから自分が自力で行きたい会社を探して、そして努力をする人が少ないですよ。

小畑 OBの中でも、今、人事の人間がおり私も何名かつないだりしている。人間はやっぱり自分の母校だから、たくさん採りたいって言うのだけど。



林先生 うん。まず行く前になかなか先輩のところに行かないね。

小畑 僕らのときは、行くところがなかったが、今はなんで、先輩のところ
に早期訪問みたいなのをしないのかが分からない。

前川先生 他にも昔に比べ外国留学などいきたい学生が少なくなっている。

林先生 就職活動しているが、傷付きやすく、一度落ちるとあきらめてしま
う。だから、「いや、おまえ、そんな普通だからね」と言っている。でも
一方、何十回、30回、50回と落ちてしまうのは、本人の問題というよ
りは、採用制度そのものに何か問題があるのかもしれないが。

前川先生 最近は申し込みが楽になったため、まじめに就職をしようと
していない者も申し込むようになった。最終面接まで行くもののいたが、名
の知れた不動産会社だと30名しか採用しないのに1,000人以上の申し
込みがある。

林先生 だけどきちんと内定をもらっている学生。特に女性が多い。宅建合
格率も女性が多くなっている。

曹 話が変わってしまいますが今の職場で事務の女性が一步引いて仕
事を積極的にとっていかないことにびっくりした。頑張る意欲もないので
そのシステムにも驚いている。また、女性が意見を出さないことに慣れて
いることで、女性の意見を出すのが慣れなく、こっちは全然、戦うとかそ
ういう意味ではなく普通に話しても、もうこいつつぶすとか、あえていじめる
とか、こっちは普通にしゃべっても、なんかそういう意識があるのはおかし
い。今の日本の女性の社会地位とかが10年後はもっと変わる。

林先生 この間、明海大学卒業生で、不動産じゃなくて、日本語学科の卒
業生の1期生の女性なのですが、外資系の不動産会社で働き、不動産鑑
定士、ご主人がやはり外国人だったかな。セミナーでイギリスの投資
家を招きすべて英語で不動産投資の議論や意見交換をされていた。感心
しました。不動産のビジネスは女性のほうが向いていると思う。

阪本先生 鑑定士だとどうなのかな。

小畑 やはり女性の数は少ない方です。ただし女性向けな仕事だと思う。

曹 中国では鑑定士は女性向けと認識されており女性も多いと聞いている。

林先生 別の話になってしまいますが、私は、不動産ビジネスほどの業界
に行っても不動産の知識を使って仕事ができるような人を育成べきだ
と思う。卒業生で不動産業界に行った人が4割。あと金融と建設という
ろ。まあ大体8割ぐらい。いわゆる不動産業界じゃなくて、業界だけじゃな
くて、不動産ビジネスで不動産の知識を使って仕事をしていくのは狙い目
だと思う。

■ 今後の明海大学に対する期待

曹 時間もありませんので最後に、これからの明海大学に対する期待。

前川先生 明海大学に対する期待はやはり、いろんなことを学んでもら
うためにいろんなことを伝えたいと思っているので、しっかりと受け止めてく
れる学生が集まること。

阪本先生 不動産学の知識だけではなく不動産学の文化を学んでほし
い。ビジネス世界に入った初期の段階ではわからないと思うが、ビジネス
を知るほど必要なものだとわかってくると思う。

林先生 不動産学部だけでなく日本の大学全体が厳しい、たとえば早稲
田とか慶応とかでも。しかし我々はそのようなトップ大学の中で勝ち残る
必要はないと思う。

日本の大学は学部ごと別れているが、前に話したが日本語学部の卒業生
が英語を使って不動産の仕事をしているケースもある。経済でも毎年1
~2人宅建を取る学生がいる。不動産学部というくくりではなく明海大学
として不動産学を取り上げていくことも1つだと思う。やはり英米語学
科ってのはブームがあったが語学だけ、やっぱり英語しゃべれても、仕事
ができなきゃしょうがない。そのときに不動産ビジネスっていうのは、国内
だけでなく、国際的にも展開している。不動産投資分野だけではなく、
流通や建設も国際化、例えば、大和ハウス工業は中国で開発事業を行っ
ている。





曹 英語と不動産ができれば、すごく強みになる。今、特に東南アジアで進出するのは、かなり言語問題が目の前に出ており、あと不動産の知識がわかり英語もかなり上級者がいれば強いと思う。それはいつから始まるのですか。

林先生 来年度から、外国語学部でグローバル・ビジネス専攻という取り組みを行う。

阪本先生 逆に、それはそれで選ぶ。どういう道を選ぶか学生に意思を持ってもらいたい。

前川先生 バブルが崩壊して、海外の証券会社とか金融機関が日本に進出してきたときに、最初やっぱ不動産関係って弱い部分があり、英語のできる人を雇ったら、その人たちは使えなかった。やはり不動産の知識がないといけない。

曹 これから、やっぱり必要だと思う。正直、私も大学るとき、英語の先生、そこまで入られて。あと基本は、基礎教養として一つあるだけで、そんなの。ただ英語の先生自体も本当、不動産の専門用語はそこまで知っているかとか、それも一つあると思います。

林先生 日本の大学の一つの問題は、専門学部の縦割りとか。教養教育をあまり軽視した点、特に文系で。

前川先生 そのためには、どうしたらいいのかっていう話。教えたことや、伝えたいことをちゃんと大学で学び、自分で選択してほしい。だけど普通の講義だと少ない人数しかいないのに、試験前になると増え、座れない環境になっている。

林先生 昔からそうだったよ。昔から有名な話は、非常勤の先生が初日の授業で教室満員、立見席も。そこで先生、「教室、でかい教室に換えてください」って事務所に相談するのだけど、事務所は「いや、あと2、3回待ってください」って。意味分かんないでしょう。その後学生数は減少、教室はガラガラになったって話だけど。

■ 卒業生に一言

前川先生 OB会に行ったときとか、話しをしてやっぱりしっかりしたなと思います。だからやっぱりOB生には頑張してほしいっていうか。後輩たちが明海大学を誇りに思えるように頑張してほしい。僕も頑張ります。

阪本先生 やはり考えるのは、今の時代、どんどん昔のやり方とは変わってきている。無理にということではないのだけれど、仕事の仕方、自由を選べるようになったときに、何か新しい仕事とか提案できるように。新しいビジネスだとか。これは役所もそうですけど。なんかそういうふうなところからしてみると、結構不動産学部に行ったことに意味があるっていう気がする。ちょっと勝手なお願いかもしれないが、卒業生にお願いしたい。

林先生 今ちょっと似ているんですけど、僕も社会学というところで育って、教育受けて、先生になった。全然役に立たないと思う勉強もあった。この知識は関係ないと思うこともあったのだけれど、だんだん仕事していると、どこかで関係し、役立っていると思ってほしい。OB生たちが苦しいときも、これらの幅広い知識がどこかで役に立ち、うまく乗り切ることができるのではと思う。その適応力っていう能力がついているのではと思う。

あとは最近、駅で卒業生と会うことがあるのですが、顔は覚えているのだけれど、何期生、何年前、名前思い出せないのよね。名前が出ないのはご容赦願って。でも、逆に卒業生も、声掛けても、多分自分のこと覚えてないから声掛けないってということで、こっちのほうが多いと思う。だけどどうぞ。声掛けてください。

曹 そうですね。ありがとうございます。これで、座談会は終了させていただきます。ありがとうございました。

Listener 聞き手



道下 直明
設計会社、不動産会社の仕事などを経て、現在株式会社A&Fソリューション勤務。



小畑 昌也
小畑不動産鑑定事務所、不動産鑑定士・宅建物取引主任者、公益社団法人千葉県不動産鑑定士協会理事



曹 雲珍
一般社団法人日本不動産研究所勤務、不動産学部非常勤講師。



門脇 千聡
不動産会社、測量の仕事などを経て、現在、区役所勤務。



Pen Relay

ペンリレー



帰省

結婚してから毎年お盆と年末年始は主人の実家の京都に帰省するのが日課となっている。

京都というとお寺が多く、舞子さんや江戸情緒溢れる町並みを思い浮かべるのが一般的だが主人の実家は京都市内からさらに特急で2時間半近くかかる日本海沿いの間人(タイザ)という町である。(日本三景の一つ「天の橋橋立」が近く、車だと市内から3時間~4時間はかかる)

初めて行った際は京都とは思えない海町に少しがっかりしたものの、毎年帰省するにつれ、自然の豊かさと澄んだ海に癒されている気がする。

特に今夏の帰省中は東京では味わえない貴重な体験を子供達と2つ体験する事ができた。

一つめは、年に一回あるかないかというくらい波の穏やかな日があり(日本海側は一般的に太平洋側より波が荒く海の水深がすぐ深くなる)皆で海水浴に行った際に肉眼で浅瀬にいた魚をたくさん発見し、またサザエやウニ等も岩場で潜ってみつける事ができた事である。

二つ目は義妹夫婦が営んでいる和牛牧場において子牛の出産に立ちあえた事である。

牛の出産はまず破水後に2本の足爪が見え出すのだが、爪が見えた時点では前足か後足の爪かわからず、第一関

節が見えて初めて正常な向きかどうか判明する。正常な場合は前足の第一関節とほぼ同時に鼻先、顔と見え出すのだが、子牛は産道で圧迫されながら出てくるため、舌が口から垂れ出した状態で出てくる。この舌は子牛といえどもかなり長く初めはピンク状の帯のように見え何が出てきているのかさっぱりわからなかった。胴体が半分くらい出てくると最後はドサツという感じで子牛の身体が出てくる。その後、母馬が舐めながら子牛を何度か励まし、約2時間後には子牛は立ち上がり母乳を飲み出していた。

子供を育てている母親として、生き物の命について学ぶ機会は都会より田舎のほうが優れているとつくづく感じている。

戸田 友紀子



新任評議員・理事紹介

NEW

MEMBER'S INTRODUCTION



三菱UFJ不動産販売(株)
◆ 山下 匠 (評議員)

明海大学不動産学部卒業生の山下匠です。現在は、三菱UFJ不動産販売に就職しました。不動産を売ったり、買ったりする仲介営業マンです。入社して間もない私は、いつも勉強の毎日です。仕事が苦しいとき、プライベートがうまくいかないときには、大学の友人にいつも相談しています。同じ大学だけで身近に感じられるつながりを、これからも大切にしていきたいと思っています。よろしくお祈りします。



プラス・テク(株)
◆ 西岡 伸行 (理事)

- ①生年月日: 1974年1月6日
- ②長所: 前向きに考える。
酒を飲むと特に(笑)どうせやるなら楽しくやろうよ!

- ③短所: 数字・人前で話すのが苦手、女性の押しに弱過ぎる
- ④趣味: スノーボード、ゴルフ、草野球、温泉めぐり
- ⑤好きな食べ物: 何でも好きですが、素材を加工していないシンプルな味付け料理全般が好きです(例)焼き魚、煮魚、湯豆腐、温野菜、純米酒・・・
- ⑥好きな芸能人: くりいむしちゅー、チュートリアル
- ⑦似ていると言われた芸能人: 市川亀次郎、八嶋智人
- ⑧特技: 癒し、つつこみ、披露宴の余興、ほどほどの酒の強さ、そこそこの日本酒知識
- ⑨好きな居酒屋: おかってや御徒町店、あおもり湯島、絆屋、鳥吉
- ⑩好きな菓子屋: ル・パティシエ ヨコヤマ
- ⑪ひとこと: 一日も早く、皆様との信頼関係を構築し、一致団結して緑風会の更なる発展を目指す所存です。どうぞよろしくお祈り申し上げます!



(株)いばらき不動産
◆ 鈴木 なつみ (評議員)

私は現在、茨城県で不動産仲介業の仕事をしております。仲介の仕事は不動産業界の仕事の中でもほんの一部分。緑風会の交流会では、不動産業界の多方面で活躍されている先輩方とお話できる為、いつも沢山の学び・気づきを頂いております。昨年末に参加させて頂いたキャリアウーマン座談会(前回の会報)では、「家庭・子育て」と「仕事」を上手く両立させていらっしゃる女性の先輩方のお話を伺うこともできました。



スターツデベロップメント(株)
◆ 武笠 秀明 (評議員)

皆様、初めまして第18期卒の武笠 秀明(ムカサ ヒデアキ)と申します。今回第18期生の代表として評議員に参加させていただくことになりました。簡単に自己紹介させていただきたいと思っております。出身は埼玉県の川口市です。高校でラグビー部に入り体を鍛えておりました。大学在学中に宅建を取得し、今現在スターツデベロップメント(株)に入社をしまして、マンション販売の営業マンとして毎日勉強の日々を過ごしております。縁あってか会社の寮が浦安にあり、明海大学にもいつでも行けると言うことで困った時にはぜひ先生方に助けをいただきたいなと思っております。休日はサーフィン、フットサル、ゴルフ、登山などを楽しんでおります。こんな私ではございますが今後ともよろしくお祈り申し上げます。

明海祭にて

無料不動産相談会を開催



明海祭で開催された無料
不動産相談会の模様



地域の方々や卒業生を対象に無料で不動産に関する 様々な質問・疑問にお答えします

2013年11月2日(土)明海祭にて開催しました。

今年で4回目になりますが、今回は講義棟4階で行い、不動産関連業に従事している緑風会理事が対応いたしました。主な相談内容は、所有不動産の権利証紛失について、遺産相続について、事業用資産の買替えについて、中古マンション購入時の留意点について等、専門的な内容が多くなってきました。

私達も逆に勉強が出来た事に感謝致します。

今後も続ける事によって、もちろん、皆様のお力をお借りしながら着々と「緑風会」の地歩を固めていければ幸いです。



2012年度決算・2013年度予算

単位(円)

項目	2012年度決算	2013年度予算
会議費	634,475	600,000
事務管理費	177,344	200,000
慶弔費	30,000	30,000
交通費	2,890	30,000
事業費	1,635,278	2,130,000
予備費	23,000	10,000
合計	2,502,987	3,000,000

2012年度事業報告・2013年度事業計画

2012年度事業報告	2013年度事業計画
第44回理事会 2012年4月14日(土)	第48回理事会 2013年4月13日(土)
第19回評議員会 2012年5月12日(土)	第20回評議員会 2013年5月11日(土)
第45回理事会 2012年7月7日(土)	第49回理事会 2013年7月13日(土)
第46回理事会 2012年12月1日(土)	第50回理事会 2013年12月14日(土)
第47回理事会 2013年2月2日(土)	第51回理事会 2014年2月1日(土)
不動産学部授業OB特別講義 2012年10月11日(木)	名刺交換会 年3回
無料不動産相談会 2012年11月3日(祝)	無料不動産相談会 2013年11月2日(土)
緑風会会報発行(No.17) 2013年2月15日(金)	緑風会会報発行(No.18) 2014年1月下旬
資格取得支援 2013年1月~2月受付	資格取得支援 2014年1月~2月受付
「緑風塾」支援	「緑風塾」支援
定例会6回 セミナー	定例会 セミナー
広報委員会	広報委員会
H Pリニューアル 2013年1月15日	H P随時更新
異業種緑風会パーティ 2013年3月1日(金)	異業種緑風会パーティ 2014年2月下旬
「不動産緑風会」支援	退職教員表彰
情報交換会2回	2014年3月22日(土)

2013年度 評議員

- | | |
|-------------------------------------|-------------------|
| 1期：吉池豪、阿部日出男、酒井上、戸田友紀子 | 8期：藤坂篤史 |
| 2期：小田倉憲一 | 10期：白井慶太 |
| 3期：齋藤豊、宋杰 | 12期：持田裕司、関根健太 |
| 4期：渡邊昭仁、齋藤哲生、田村康史、鷺見奈奈海
富樫真、向井順哉 | 13期：登玉健太、柏木俊也 |
| 5期：久保ノ谷淳、高橋秀輔 | 14期：石井善弘、市川友 |
| 7期：竹内靖治 | 15期：鈴木なつみ |
| | 18期：萩原沙妃、山下匠、武笠秀明 |

2013年度 理事

- | | | |
|-----------------------|----------------------|-----------------------|
| 代表 松島孝夫(4期) | 理事 道下直明(6期) | 理事 津賀国栄(15期) |
| 副代表 小畑昌也(2期) | 理事 小谷地あゆみ(7期) | 理事 伊藤憲(1期) |
| 副代表 石川崇之(7期) | 理事 曹雲珍(8期) | 顧問 佐藤仁思(1期) |
| 事務局担当 小野文章(2期) | 理事 後藤智(8期) | 顧問 本間勝(1期) |
| 理事 西岡伸行(2期) | 理事 門脇千聡(13期) | 顧問兼監事 渡辺孝之(1期) |

編集後記

2014年、本年もよろしく願いいたします。

2013年は、富士山が世界遺産に登録され、2020年東京オリンピックが決定するなど景気の回復とともに良い話題が多かった年でもありました。

今年はソチオリンピック、ワールドカップブラジル大会など楽しいイベントがあり、明海大学OB・OGの皆様にも楽しい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

緑風会広報より

メールアドレス ryokufukai@meikai.com

平成26年1月発行
発行：明海大学浦安キャンパス同窓会緑風会
印刷製本：(株)弘文社 デザイン：(株)マキア